

謹賀新年



「城に桜、街に金魚、
平和と歩んだ70年」

大和郡市長

上田 清



「新年を迎えて」

大和郡山市議会議長

西川 貴雄

明けましておめでとうございます。

さて、昨年完成した市役所新庁舎。歩行者専用となった百壽橋につながる交流棟は「みりお〜の」と命名されました。エスペラント語で「百万」を意味し、より多くの方々と交流を！という願いとともに秀長百万石も意識した素敵な名前です。

1階には市内の福祉作業所が共同で運営する「百壽橋商店みりお〜の」や、親子たんとん広場、金魚が泳ぐ大きな水槽と金魚文庫、明るい窓際とフロアには、飲食可能なスペースが広がります。

一方、秀長の世から時を経て江戸時代の後半、享保9(1724)年、柳沢吉保の子吉里が国替えとなり、領国の甲府からは総勢5286人が400km以上離れた郡山に向かい、現代人には想像もつきませんが、10泊から長くても12泊で到着しています。

それから今年でちょうど300年。同時に伝わった金魚も300年の歴史を刻んだこととなります。

市制施行70周年とも重なる1年。ふるさとの魅力を再発見する絶好の機会にしたいものです。

その記念キャッチフレーズが、市内中学生の投票により、次のように決まりました。

『城に桜、街に金魚、平和と歩んだ70年』

若者や子どもたちにもまちづくりに参加を！

郡山城天守台では昨年末、阪南大学と奈良高専の学生が制作したプロジェクションマッピングが投影され、好評を博しました。

DMG MORI やまと郡山城ホールでは、関西文化芸術高校のみなさん手づくりのイルミネーションが輝き、電車からもみごとな眺めです(2月4日まで)。

また子育て支援の一環として、中学校における給食の無償化を新年度から開始しますが、浮いた経費を有効に活用いただければと存じます。

皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。

市議会を代表いたしまして、謹んでごあいさつを申し上げます。

長引くコロナ禍を経て、ようやく日常を取り戻し、まちに賑わいが戻ってまいりました。市民の皆様には、日頃は市政に対し暖かいご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

今年には市制70周年の節目の年であります。記念事業を契機として、これまでの歴史を振り返るとともに、本市の未来が更なる飛躍・発展に向かい躍動することを願っております。

さて、市議会において特別委員会を設置し、様々な意見や提言を述べてきた新庁舎が、昨年6月交流の場交流棟「みりお〜の」の完成により、グランドオープンを迎えました。新庁舎は、免震構造による耐震性を確保し、非常電源を備えるなど災害発生時の防災拠点としての機能も備えているとの事であります。行政サービス提供の中核である新庁舎が、防災の拠点として、更に、まちづくりの拠点として、郡山城跡や城下町と共に、市のシンボリックな存在となることを期待しております。

昨年、新たに特別委員会を設置し、議論しております清浄会館の再整備をはじめ、今後、近鉄郡山駅周辺地区のまちづくり、JR郡山駅西側から北進する城廻り線街路事業、郡山城跡の公園整備や中学校トイレの全面改修等あらゆる世代が安心・安全に暮らせるよう、事業の早期完了に向けて、市当局とともに一致協力して取り組んでまいります。

結びに、本年も市民の皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、市民の皆様のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。



旧庁舎落成(昭和36年)



旧庁舎



新庁舎